

中学生の『税についての作文』 優秀作品

👑 芝税務署長賞／東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税が創る明日」

新島村立式根島中学校 2年生

私は地元の味が大好きだ。例えば、私が小さい頃から食べている野菜や魚は、とても新鮮で絶品だ。そんな地元の味を今でも楽しむことができるのは、税金のおかげだ。

私が住む式根島は、自然に溢れ、数分歩けば太平洋を望むことができる小さな島だ。豊かな自然からは旨味の詰まった野菜が採れ、漁船を出せば脂の乗った魚がたくさん取れる。

しかし、今現在、私たちの島は少子高齢化に悩まされている。理由は、私たちのような若い世代が、島外の高校への入学を機に上京してしまうからだ。

少子高齢化によって、農業や漁業を行う人の年齢層は年々高くなっている。この状態が続けば、今度は農林水産業を行う島民が減っていつてしまう。そうすると、結果的に野菜の収穫量や漁獲量も減ってしまい、最終的にはそれらの味を二度と味わえなくなってしまうのだ。

そういった状況を鑑みた私の両親は、他の島民の方から畑を借りて、農業を始めた。私は正直、上手くいくと思えなかった。なぜなら、農業をするにはかなりの出費が必要になるからだ。例えば、トラクターを一つ買うだけでも、最低80万円前後かかってしまう。心配だった私は父親に、お金については大丈夫か聞いてみた。「大丈夫だよ。トラクターとかの農機具を買うのにも、国から補助金が出るからね」

私は驚いた。税金がこういう所でも使われているの

かと。

調べてみたら、税金によって賄われる補助金の力で、若い世代や農業をやったことのない人でも、農業にチャレンジできるようになっていたのだ。つまり、この税金のおかげで、私たちの地元の味も守ることができるのだ。

少子高齢化は私たちの島だけの問題ではなく、全国で問題視されていることだ。それは農林水産業従事者が減っているということでもある。そんな中で、税金によってたくさんの人たちがチャレンジできる可能性があるのだ。この支援によって、日本の農林水産業の持続力は高まり、いつまでも日本の味が楽しめるのだ。

税金が、社会福祉や教育に使われていることは知っていた。しかし、農業にも税金の補助があることは知らなかった。消費税にも、所得税にも、あまり良いイメージは持てていなかった分、今回そのありがたさを再認識させられた。

「税金を払っている」ということは、「誰かを支援している」ということでもある。私が、皆が払った税金は、日本国民の生活を支えている。そして今回、その税金が日本の未来も担っていることも分かった。たった十円、百円で誰かの生活を、そして、地元の未来を支えることができるのだ。皆で創る日本の明日は、絶対に明るい。

中学生の『税についての作文』では、18校から541編ご応募いただきました。

皆さんの税に対する深い理解と、暮らしのなかで感じた税への思いなどが表現され、読み応えのある作品ばかりです。特に優秀な作品を選定させていただきましたので、ぜひお読みください。

【芝納税貯蓄組合連合会／会長 丸哲夫】

👑 芝税務署長賞／東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

「『当たり前』に気づいて」

八丈町立三原中学校 3年生

授業で税理士の方に来ていただき、税金についてのお話を伺いました。そのおかげで、私たちが当たり前のように暮らせているその裏側には、税金の存在があるということに気づくことができました。私は、税金を払うことは「損」と考えていましたが、税金制度のない国のお話を聞いて、私の税金に対する意識が少し変わりました。

例えば、税金制度がなかったら、私たちの暮らしはどういう風になるのでしょうか。現在の日本では、銃を所持することは法律で禁止されていますが、税金制度のない国では警察は存在しません。そうすると、自分の身は自分で守らなければならなくなるので、みんなが銃を所持しなければならなくなります。他にも、学校の設備が整っていないため、バインダーを持って机のない屋外で授業を受けることになります。実際このような国は世界中どこにでもあるということを、税理士の方は写真で示しながら私たちに分かりやすく教えてくださいました。私たちは安全に暮らしたり、学校に行って勉強するのが当たり前だと思いがちですが、それはとても恵まれていることで、私たちの生活がどれほど税金に助けられているのか実感することができました。

授業では、日本のこれからの課題についても伺いました。現在の日本の財政状況は深刻で、歳入よりも歳出のほうが多くなってしまっています。税金だけでは歳入が足りないため、「公債金」という借りたお金で国民の生活を補っているのです。借りたお金は必ず返さなけれ

ばいけないのですが、このお金が年々増えていることが、今の日本の現状です。しかも日本は、これからますます少子高齢化が進んでいきます。そうすると、医療や年金、介護などに必要なお金が増えていく一方で、それらにかかる税金や社会保険料などを負担する若い世代が減り、今のままの制度では、これから先の国民生活を維持することが難しくなってしまいます。この現状を解決し、誰もが安心して暮らせる社会を維持していくことが、日本のこれからの大きな課題であることを教わりました。

私たち中学生ができることは、消費税を払うことくらいしかないかもしれません。しかし、税金がどれだけ私たちの生活を支えているのかを認識し、税金が実際にどのようなことに使われているかについて関心をもつとともに、社会のさまざまなしくみやこれからの課題などについて当事者として学ぶことが、私たち中学生ができることの第一歩になるのではないのでしょうか。

私は幼い頃、よく病院に行きました。健康な今の私がいることに感謝しています。「誰かが払う税金で自分が支えられ、自分の払う税金で誰かを支える」ということを忘れず、今度は自分が誰かを支える番になりたいです。



普段食べている「地元の味」から、税について考える着眼点が素晴らしい。



住んでいる場所から、全国の問題まで視点を広げて考えていることに感心しました。



授業で学んだことをまとめるだけでなく、自分の意見もしっかりと入れて、思いが伝わる文章です。



税と社会のしくみについて、これからどんなことを学び、考えていくのか、将来が楽しみです。

東京都港都税事務所長賞

「日本の税金について思うこと」

港区立御成門中学校 3年生

日本で「税金」と聞いて、良いイメージを持つ人はほとんどいない。古代から民衆が年貢に苦しめられてきたことを、歴史の授業で散々学んだからだ。飛鳥時代に租庸調制が始まり、安土桃山時代には、豊臣秀吉により太閤検地が行われ、明治時代には地租改正により、地価の3パーセントを貨幣で納めることになった。いつの時代も年貢は庶民の生活を圧迫し、一揆や打ちこわしが絶えたことはない。「年貢の納め時」という言葉からも、何とかして年貢の納入を回避しようと、庶民が必死であったことが分かる。このような歴史的背景から、「税金」＝庶民の生活を圧迫する重い義務という概念が、まだ税金のことをよく知らない僕達にも根付いているのだ。

では世界の他の国はどうなのか。消費税をとってみると、日本の10パーセントという税率は、世界の中では低い方であり、ヨーロッパ諸国は軒並み20パーセントを超えている。一方で、毎年発表される「世界幸福度ランキング」の上位国は、いずれも消費税率が高い国々であることに驚くばかりだ。北欧三国(フィンランド、ノルウェー、スウェーデン)やデンマーク、アイスランド等、消費税率が24～27パーセントの国の多くの人達は消費税に不満を持っていないと聞く。確かにこれらの国の社会保障は充実している。医療費が無料、学費が無料、年金の充実、インフラの充実などが実施され、老後の貯金の心配もしなくて良さそうである。「国に貯金している」という感覚であり、払った分は還元してもらえているとい

う充足感、安心感があるのであろう。

日本においても、税金はもちろん重要な役目を果たしており、社会保障があつてこそ、国民は安定した生活が送れているのだと思う。しかし、日本人の多くは、納めている税金の方が大きく、十分還元してもらっていないという感覚の人が多いのではないだろうか。僕は五人兄弟の長男であり、これから高校受験を迎える。両親は五人分の授業料のことで頭がいっぱいで、老後の安定など、まだ考えられないと言っている。

僕は日本の税金について改善すべきことが二点あると考える。一つ目は、税金のメリットについて国民がもっと深く理解できるよう「知る機会」を作ることだ。若いうちに学べたら、より良いと思う。そして、税金についてのマイナスイメージを払拭することが大切である。二つ目は、税金の使い道の検討である。ヨーロッパ諸国のように、より多くの国民が税金の恩恵を享受できていると認識できるような使い方を模索しなければならないと思う。

日本は豊かな国である。しかし、精神的豊かさにおいては他国の方が上かもしれない。税金の納入と、恩恵の享受のギャップが埋まり、国民が心の豊かさを得てこそ、税金の意義があると考ええる。

港区長賞

「母の帰省と入湯税」

港区立三田中学校 3年生

私の母の故郷は福岡県です。大分県と熊本県の境にあり、阿蘇山を水源とする筑後川のすぐ側に位置します。この川は別名筑紫次郎と呼ばれ、関東の利根川、四国の吉野川と並ぶほど暴れ川だそうですが、普段は悠々と九州一の穀倉地帯である筑紫平野を流れ、川沿いに広がる田園、山里に多くの実りをもたらしています。

ここに住む祖父母とはコロナ禍の影響で長い間会えていなかったのですが、この夏に母と一緒に帰省しました。その時に実家近くの温泉旅館で五年ぶりに鵜飼いが再開されると聞いて、舟遊びと温泉を楽しむことになりました。母の故郷は傷ついた鶴を癒すほどだと名を馳せる名湯でしたが、五年前の夏に集中豪雨に襲われ、未曾有の浸水被害、土砂被害、人的被害を受けました。さらに、追い打ちをかけるようにコロナ禍に見舞れ、休業、廃業に至った旅館もある中での鵜飼いの再開は、少しずつ、けれど確実にいつも通りの日常生活が戻ってきているのではないかと感じられ、とても嬉しくなりました。

鵜飼いや岩風呂などを楽しんだ翌朝の朝食の時のことです。祖父が旅館の仲居さんに再開を祝う言葉をかけたのですが、「ボランティアの方のご厚意や行政からの支援金と入湯税に助けられました。」とのお返事が返ってきました。今まで聞いたことがなかった「入湯税」という言葉に驚き、どのようなものか質問したところ、

「お風呂を利用するお客様から一人150円の入湯税という税を頂いて、温泉源の補修や温泉街の環境、景観の保持に活用しているのが、入湯税です。今回は多くの方から義援金も頂き、とても助かりました。」と教えていただき、お風呂に入るのに税金があるのかとまた驚きました。もちろん、税には大きく分けて国税、地方税、直接税や間接税などがあり、人々の暮らしを支えるために使う財政であることは知っていました。そして、その多くの使い道は政府が決めることだと思っていたが、入湯税のようにあらかじめ使い道が決まっている「目的税」があることを初めて知りました。これを機に、他の目的税について調べてみました。目的税の多くはこの入湯税をはじめ、道路税、都市計画税、最近では新しく設けられた宿泊税のようにその地域住民のために直接に活用されることも分かりました。

もしかすると、各地から訪れてきた温泉客も私のようにその役割もよく分からないままの入湯税だったかもしれません。しかし、その僅か150円は、一滴の雨が集まり、山間を抜けて支流である筑後川となって地域の恵みを育むように、人々の暮らしに役立っているのだと実感しました。私が無意識のままに支払っている消費税もある意味での筑後川の源流だと学ぶとともに、私もより良い雨の一滴になりたいと強く思う母との帰省でした。



日本の歴史に触れながら、世界との比較もして非常によくまとめられています。



「精神的豊かさ」と税を関連付ける目のつけどころが、新しいですね。



久しぶりの帰省だけで終わらずに、税のことを学び、調べることまで行動に移したことに感心した。



私たちのまわりには、消費税だけでなく、いろいろな税があることを改めて感じました。

中学生の『税についての作文』優秀作品

毎年、年度末に発行していた「税についての作文」作品集は、
署の意向により、今年度からなくなりました。



港区教育委員会賞

「納税で暮らしを支える」

港区立三田中学校 3年生

私の住む東京都港区には中学3年生までの子どもの医療費を区が助成してくれる制度があります。私は幼い頃から港区に住んでいたため、医療費が安いのは当たり前だと思っており、この制度のことを何も知りませんでした。しかし、中学三年生になったとき、母に「来年からは医療費が高くなるんだよ。」と言われ、そこで初めて港区の子ども医療制度を知りました。さらに、この制度について調べると、この制度はどの区や市町村にもあるわけではないことを知って、医療費が安くなることが当たりまえではないことに驚くとともに自分がとても恵まれていることを感じました。また、東京都全体でも2023年度から高校生までの医療費を無料化する方針が固められたというニュースを聞き、より負担が軽減されることで医療が受けやすくなっていくのではないかと思いました。

これらの制度は、私たちが払う税金によって成り立っている、ということを皆さんはご存じでしょうか。私は今まで税金は義務であり負担としか考えていませんでした。しかし、税金が私たちの負担を軽くするために使われていると知って、実は私たちは税金に助けられているのだと感じ嬉しくなりました。普段私たちが買い物をする際に払う税金が、医療や教育の面で私たちに還元されているのです。私は小さい頃けがをすることが多く、よく病院や歯医者にかかりましたが、そこでの負担が少なくなっていたのも税金と区や都の制度のおかげだったのだと実感しました。



国民の義務だからではなく、「意識して納税」をすることはなかなか大人でも気づけません。



税は「還元」される、と聞いて、なるほど。と改めて税について考えさせられました。

『税の標語』優秀作品

どの標語からも皆さんの税に対する、率直な思いがひしひしと伝わってきました。

35校から、1338件の素晴らしい作品をご応募いただき、ありがとうございます。

【芝間税会／会長 河村守康】



芝税務署長賞

一人一人が考えよう 暮らしに関わる 税のこと

港区立三田中学校 3年生



東京都港都税務所長賞

税金を払ってつこう 明るい未来

八丈町立大賀郷中学校 3年生



港区長賞

税金を納めてできる 国の基礎 正しく使って みんな安心

港区立芝小学校 6年生



港区教育委員会賞

その税は 暮らしを支え 未来を変える

港区立高松中学校 3年生

芝優申会 会長賞
税金を納めて芽がでる 責任感

港区立高輪台小学校 6年生

芝間税会 会長賞
消費税使う役割 払う義務

大島町立第三中学校 3年生

一般社団法人芝青色申告会 会長賞
納税で社会を支える 土台を作ろう

港区立港南中学校 3年生

芝酒類商連合会 会長賞
消費税 ことにもできる ささえた

港区立芝浦小学校 6年生

公益社団法人芝法人会 会長賞
知って学んで考えよう

暮らしを支える 税の仕組みと使い道

港区立御成門中学校 1年生

東京税理士会芝支部 支部長賞
税金で支える 日本 変わる 社会

神津島村立神津中学校 2年生

芝納税貯蓄組合連合会 会長賞
考えよう 未来を照らす 税の有り方

港区立高松中学校 3年生



芝間税会入賞を受賞したみなさん：

港区立御成門中学校 1年生／港区立御成門中学校 1年生／港区立三田中学校 3年生／港区立三田中学校 3年生／
港区立高松中学校 3年生／港区立港南中学校 3年生／港区立御田小学校 6年生／港区立白金小学校 6年生／
港区立白金小学校 6年生



みなさんの税に対する真剣な思いが伝わります。
次世代でこの思いを広げましょう。



豊かな暮らしを保つためには、税の有意義な活用
が必要です。みんなで理解を深めよう。

『税に関する絵はがきコンクール』 優秀作品

小学生3、4、5、6年生の皆さんを対象に開催した『税に関する絵はがきコンクール』では、17校から364作品ご応募いただきました。税への理解を絵はがきで表現した皆さんの作品は、どれも素晴らしいものです。これからも税を学び、税の大切さを多くの人に伝えてください。

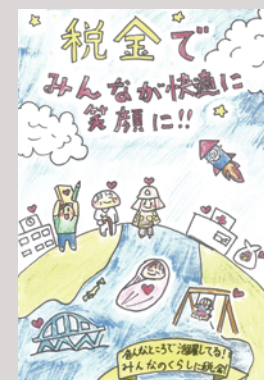
【公益社団法人芝法人会／会長 竹ノ上藏造】



港区立赤羽小学校
芝税務署長賞
4年生



東京都港都税事務所長賞
八丈町立三根小学校
6年生



芝納税貯蓄組合連合会会長賞
大島町立さくら小学校
5年生



東京税理士会芝支部
支部長賞
港区立御成門小学校 6年生



公益社団法人芝法人会
会長賞
神津島村立神津小学校 3年生



港区立芝浜小学校
港区長賞
6年生



港区教育委員会賞
港区立小中一貫教育校 お台場学園 港陽小学校
5年生



芝酒類商連合会会長賞
小笠原村立小笠原小学校
6年生



一般社団法人芝青色申告会会長賞
八丈町立三原小学校
6年生



芝間税会会長賞
港区立高輪台小学校
6年生



芝優申会
会長賞
利島村立利島小学校 6年生



公益事業委員長賞
三宅村立三宅小学校 5年生



女性部会長賞
港区立御田小学校
6年生

感動voice
税の使い道といえば、やはり、信号や救急車など、みなさんにとって身近なものが多いですね。他にはどんなものがあるか調べてみてくださいね！

感動voice
ひとつひとつの色をていねいにぬられていて、全体的にまとまった色あざやかな絵はがきが多く、楽しみながら見させていただきました。

感動voice
税がわたしたちの暮らしを支えてくれている、ということがよくわかる絵はがきが多く、税の大切さを改めて認識させられました。

感動voice
一目で表現したい内容がわかること、さらに、絵はがきのなかの人、ものが飛び出てきそうな、動きのある立体的な構図が印象的でした。